

研究成果報告③

# つわりの程度と早産の関係は？

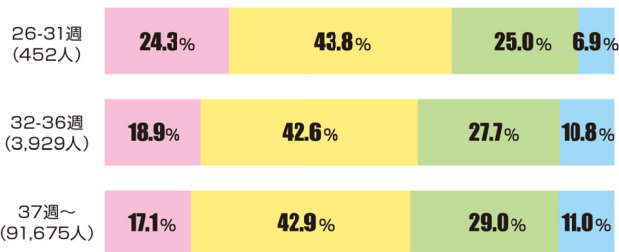
妊娠初期には妊婦の多くが「つわり」を経験します。つわりは妊娠中に増加するホルモンによりおきると考えられています。つわりの症状の程度には遺伝が大きく関係しますが、つわり症状が強いことはより良いホルモン環境を反映している、という説もあります。

今回私たちは26週～31週の早産、32週～36週の早産、正期産（37週以降）の三群でつわりの程度にちがいがあるかどうかを検討しました。「妊娠してから妊娠12週ころまでの間につわりの症状はありましたか？」という質問に対し、「つわりはなかった」と答えた人の割合は26～31週の早産であった人で最も高くなっていました。一方、「嘔吐して食事もとれなかった」と答えた人の割合は正期産であった人で最も高くなっていました。早産となった人の方がつわりがなかった人が多いようですが、つわりの程度には様々な要因が関連しており、まだまだ不明な点もたくさんあります。つわりがなくても、ひどくても気にし過ぎる必要はなさそうです。

## 妊娠してから妊娠12週頃までの間につわりの症状はありましたか？

■ つわりなし ■ 吐き気のみ ■ 嘔吐はするが食事はとれた  
■ 嘔吐して食事もとれなかった

在胎週数



- 26週未満の早産については、つわりについての質問に回答していただく前に出産となったケースが多いと考えられるため解析から除外しています。
- 多胎も解析から除外しています。

論文：BMC Pregnancy and Childbirth. 2018 Jun;18(1):268-274.



みつだ なおみ  
満田 直美

エコチル調査高知ユニットセンター  
（高知大学医学部環境医学教室） 特任研究員/小児科専門医・日本小児科身医学会認定医。専門分野は発達障害、小児心身症。  
広島県出身、1歳男児の母。